

## 4. 知的財産の創出

本章では、当研究所の多様な知財について、創出の実績を示します。

### 4.1 報告書

当研究所では、研究活動の第一義的な成果物として、毎年数百件の報告書「電力中央研究所報告」を出版しており、最も重要な知財の一つとなっています。

過去5年間に刊行した報告書件数を図4.1-1に示します。2008年度は625件となっています。また、それらの分野内訳を図4.1-2に示します。

付録(1)には、2008年度に一般に公表した報告書のリストを示しました。

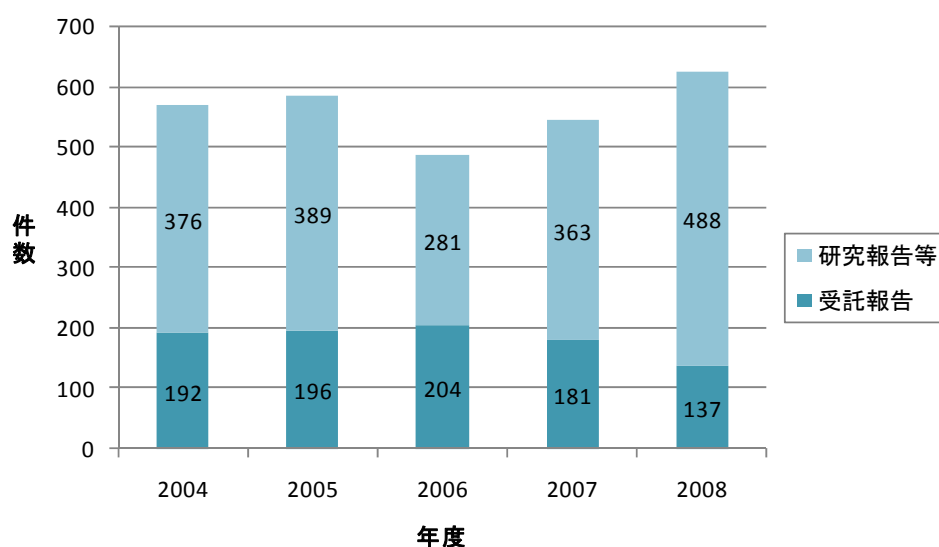


図 4.1-1 報告書件数

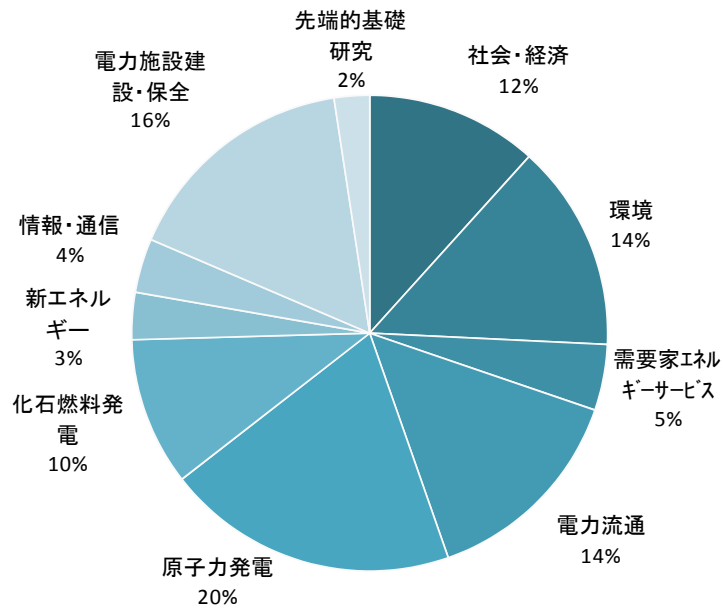


図 4.1-2 2008 年度 報告書分野別内訳

## 4.2 論文

当研究所は、学術研究機関として、学術界に貢献することも重視しており、学協会等への論文の投稿も積極的に行っています。図 4. 2-1 に示すとおり、2008 年度の論文総数は 1, 682 件であり、年々増加の傾向にあります。また、2008 年度の論文の分野別件数を図 4. 2-2 に示します。なお、図 4. 2-1 において、「査読あり」は、学術的な定期刊行物への投稿と学会・国際会議等での発表のうち、専門家による論文全文の査読により採択可否が決定されるものの総数です。「査読なし」は、「査読あり」以外の学術的な論文投稿と学会・国際会議等での発表の総数です。

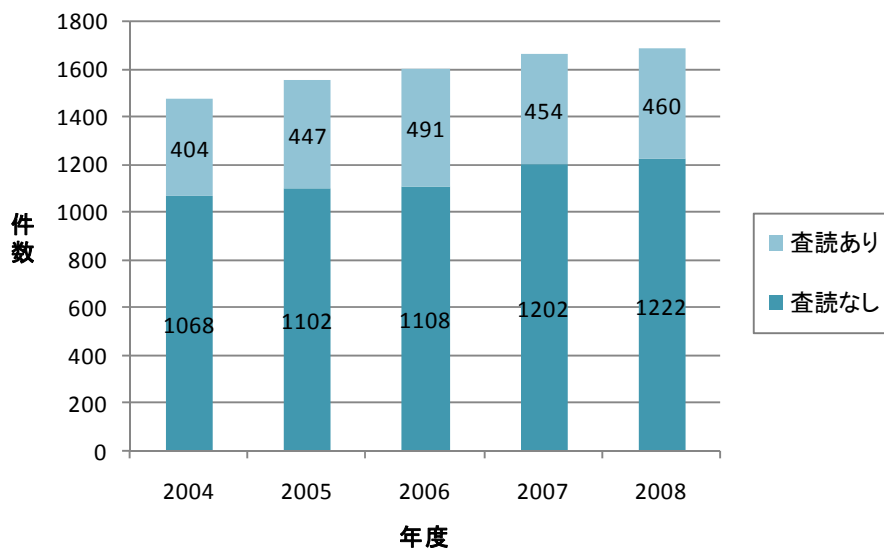


図 4.2-1 論文の総数

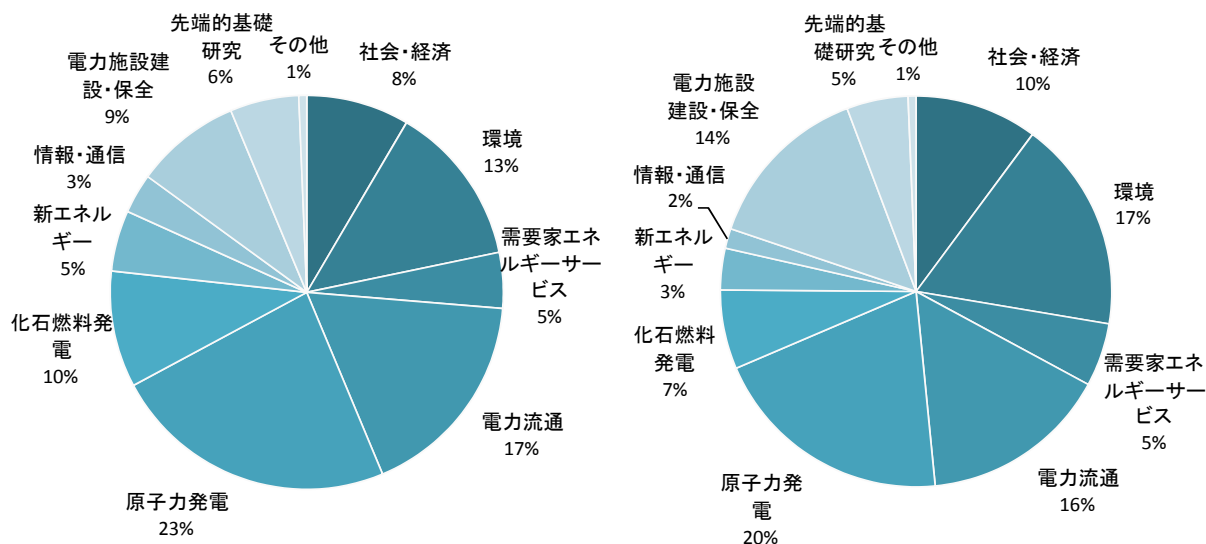


図 4.2-2 2008 年度 論文の分野別内訳(左:査読あり、右:査読なし)

### 4.3 特許

電気事業の共通利益の擁護・増進の観点、ならびに産業界への円滑な技術移転の観点から、特許出願・登録と、その実施許諾を積極的に行っています。

図 4.3-1 に特許出願の過去 5 年の推移を示します。また、図 4.3-2 に特許出願件数の分野別内訳を示します。2003 年度に知的財産センターの前身である CS 推進本部が発足し、知財活動の強化を図った結果、2004 年度から特許出願が急増しました。その後、出願数は減少傾向ではありますが、先行技術調査の強化などにより質的向上を図っています。

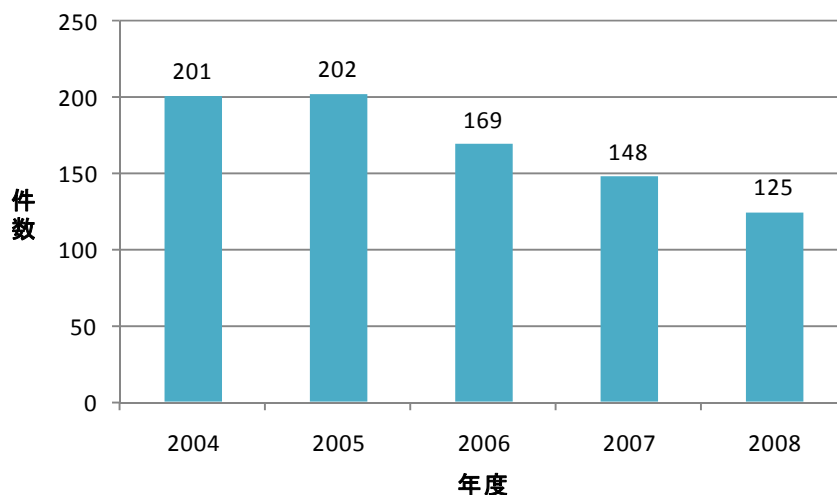


図 4.3-1 特許出願件数

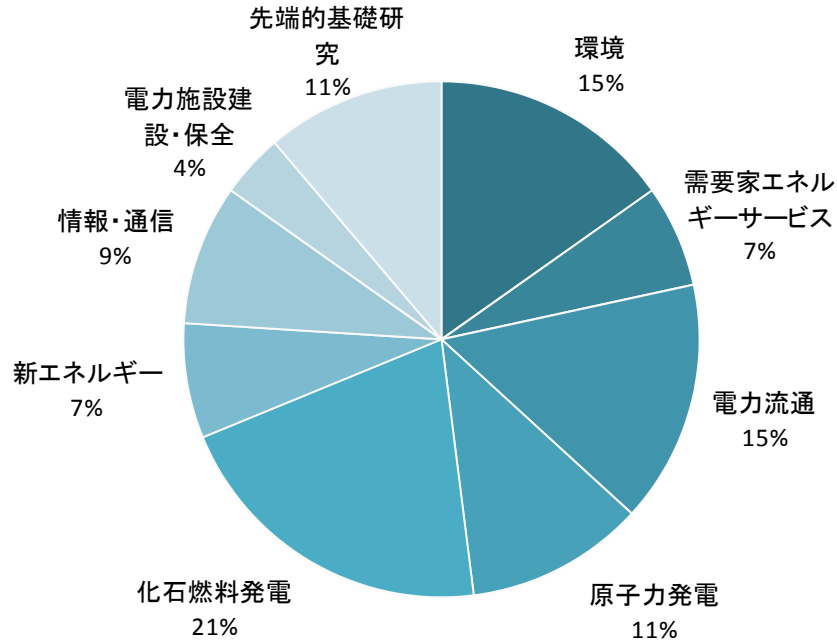


図 4.3-2 2008 年度 特許出願の分野別内訳

図 4.3-3 に特許登録件数の過去 5 年の推移を、図 4.3-4 に 2008 年度の分野別内訳を示します。特許登録件数の増減傾向は明確ではありませんが、2003 年度以前の出願数を反映したものであり、登録数の明確な増加にはまだ数年を要すると考えられます（図 4.3-3）。付録(2)には、2008 年度の新規特許登録リストを示しました。

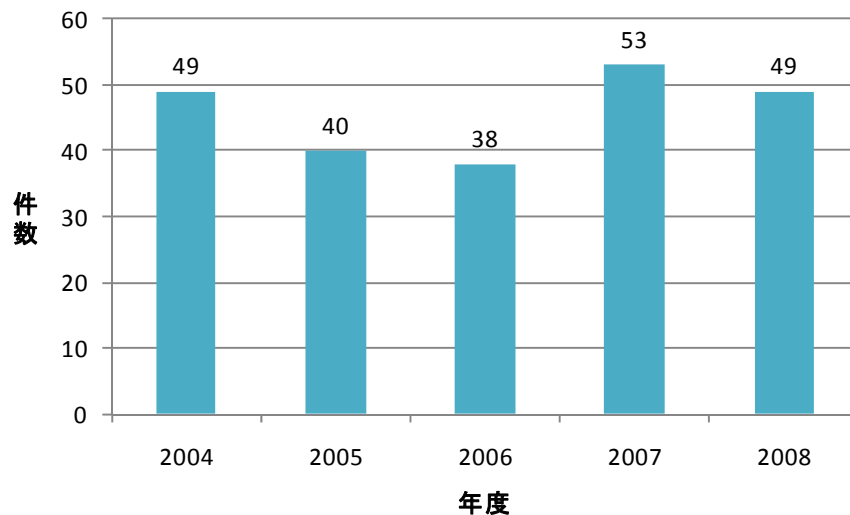


図 4.3-3 特許登録件数

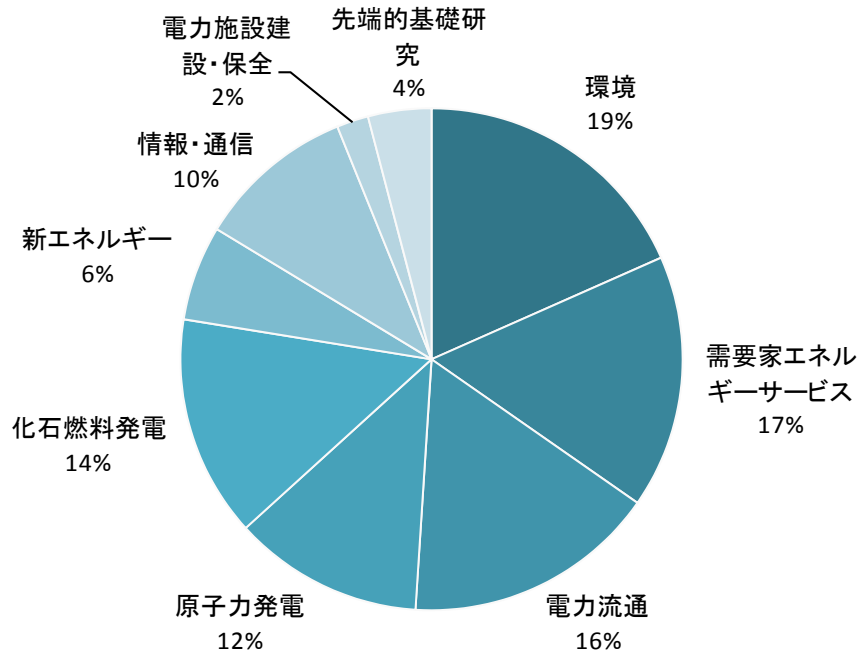


図 4.3-4 2008 年度 特許登録の分野別内訳

#### 4.4 ソフトウェア

電気事業に係わる評価・分析・解析は、当研究所が最も強みを有する特徴的な分野であり、研究やコンサルティングの手段として、数値シミュレーションプログラムなどのコンピュータ・ソフトウェアを数多く開発しています。このため、著作権管理のためのソフトウェア登録制度を所内に設けています。

2008 年度のソフトウェア登録件数は 97 件でした（図 4.4-1）。

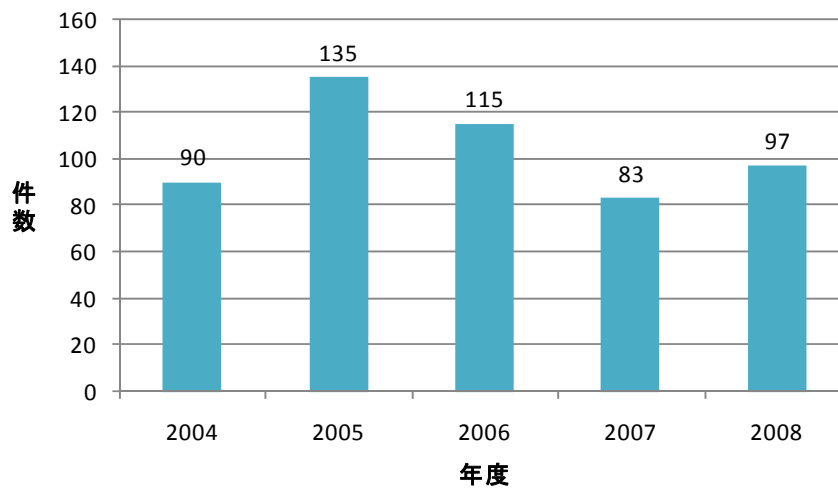


図 4.4-1 ソフトウェア登録件数